

ロービジョン児童生徒の白黒反転 に対するニーズ

--拡大教科書に白黒反転を望む児童生徒の実態--

○ 中野 泰志、新井 哲也、大島 研介、吉野 中、花井 利徳、草野 勉
 (慶應義塾大学) (神奈川県) (首都大学東京) (明星大学) (明星大学) (東京海洋大学)



目的

2008年に教科書バリアフリー法が施行されて以降、拡大教科書の発行実績が増加し、2012年には小中学校のほとんどすべての教科書の拡大版が出版された。拡大教科書が普及するにつれ、様々なニーズが寄せられるようになった。その中の一つに、白黒反転があるが、どの程度のニーズがあるのか、また、どのような児童生徒が希望しているのかは明らかになっていない。そこで、本研究では、拡大教科書のユーザを対象に、白黒反転のニーズの実態を調査した。

方法

- 第1次調査：2011年度に拡大教科書の無償給与を受けている児童生徒の人数等を把握するために、全国の区市町村教育委員会等398箇所と盲学校70校に対してアンケート調査を送付し、ロービジョンの児童生徒の在籍校、児童生徒の人数等を把握した。
- 第2次調査：第1次調査で明らかになった弱視児童生徒の在籍校すべてに対して、区市町村教育委員会等と盲学校を介して、アンケート調査を児童生徒の担任教員に配布し、回答を求めた。アンケートでは、視力等の視機能、まぶしさ等の見え方、拡大教科書の利用状況、そして、白黒反転の好み等について調査した。

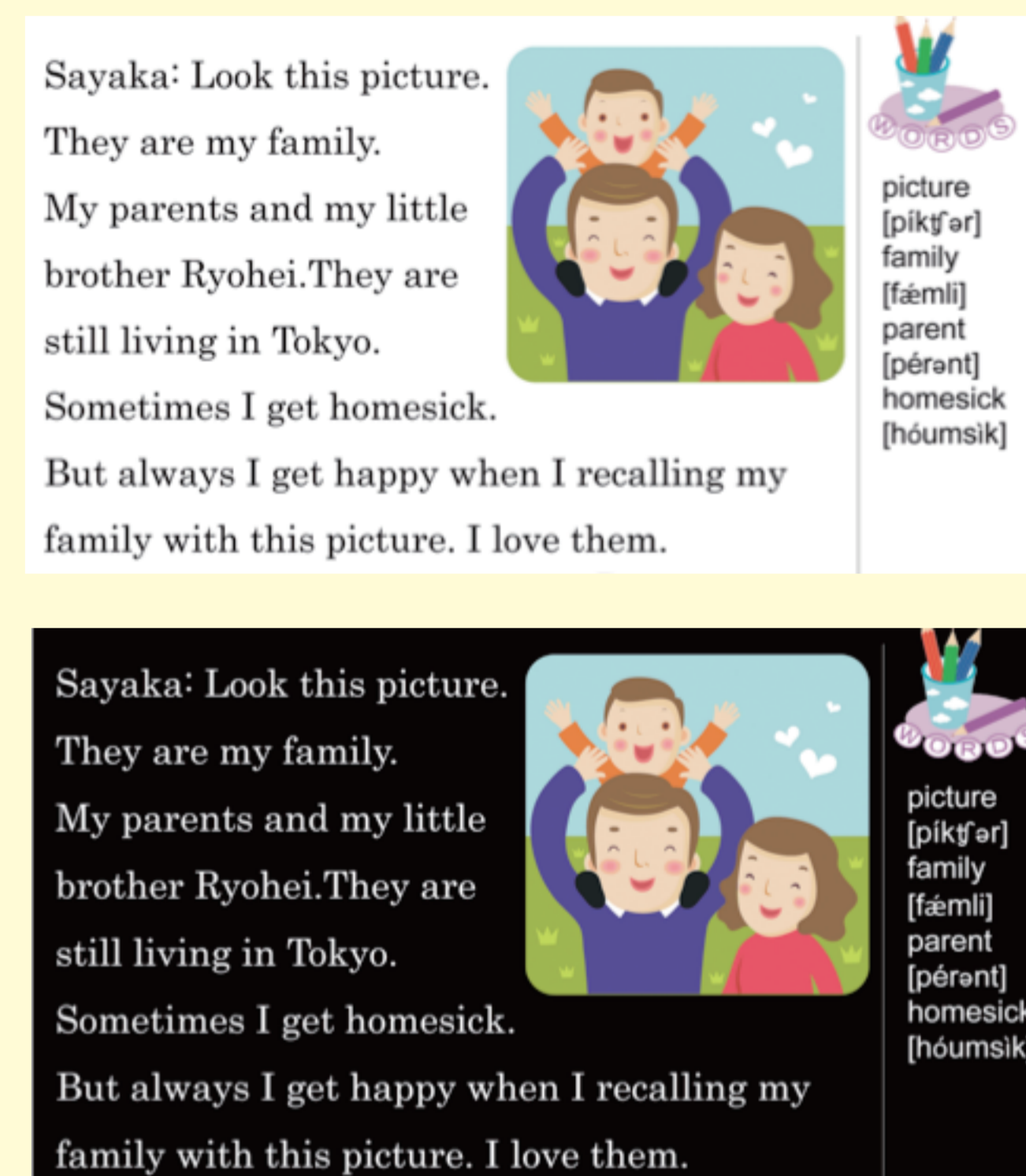


図1 白黒反転の好みの評価に用いたサンプル(サンプル紙面を見て、好み等の判断を求めた)

結果

第1次調査の結果、区市町村教育委員会等から331件、盲学校から70件の回答があり、回答者が把握している拡大教科書を利用しているロービジョンの小中学生の総数が1,158人であることがわかった。この1,158人全員に対して第2次調査を実施した結果、928人から有効回答が得られた(表1)。この有効回答の中で、白黒反転を好む児童生徒は256人、「まぶしさ」を感じている児童生徒は354人であった。白黒反転の好みと「まぶしさ」に関してクロス集計を行った結果、白黒反転を好むからと言って、必ずしも「まぶしさ」を感じているわけではないことがわかった。

表1 対象児童生徒

	通常学級	弱視学級	盲学校	計
小学生	357	144	89	590
中学生	167	42	123	332
無回答	0	0	6	6
計	524	186	218	928

(人)

表2 反転の必要性和「まぶしさ」の関係

	反転希望	反転不要	無回答	計
まぶしい	131	215	8	354
まぶしくない	121	396	21	538
無回答	4	27	5	36
計	256	186	34	928

(人)

表3 反転の必要性和「まぶしさ」の関係2

		通常学級	弱視学級	盲学校	計
反転が必要	まぶしい	62	32	37	131
	まぶしさなし	56	33	32	121
	無回答	2	0	2	4
反転は不要	まぶしい	135	29	51	215
	まぶしさなし	236	84	76	396
	無回答	11	4	12	27
無回答	まぶしい	4	1	3	8
	まぶしさなし	17	1	3	21
	無回答	1	2	2	5
計		524	186	218	928

(人)

表4 「まぶしさ」があるのに反転が不要な理由

理由	人数	比率 (%)
一般の教科書と同じフルカラーだから	71	33.0
白黒反転のものは見にくいから	38	17.7
フルカラーの方が見やすいから	51	23.7
教科書に書き込みができるから	39	18.1
その他	8	3.7
無回答	8	3.7
計	215	100.0

まとめ

- ・白黒反転を好む人は、256人(盲学校70人[34.1%]、弱視学級65人[34.8%]、通常の学級121人[22.9%])で全体の28.0%であることがわかった。
- ・しかし、反転を好む人は必ずしも「まぶしさ」を感じているわけでも、「まぶしさ」を感じている人が反転を好むわけでもないことがわかった。